

フランク・ロイド・ライト

(1867～1959)

日本でも旧帝国ホテルをはじめ、
つの建築作品を手がけているが、
自由学園の建築(1921年)は
そのうちの一つである。羽仁夫妻
の新しい学校の教育理念に接
し、ライトが約1ヵ月でその理念
に形を与える設計を画き上げたの
には、ライトの深い共感、なかで
も自身の母親や叔母の教育方法と
の親近感があつたといわれている。

遠藤新 (1889～1951)

1917年よりライトに師事。帝
国ホテルの設計に、ライトのチー
フアシスタントとして関わる。ラ
イトは1922年に帰国してお
り、建築途中であつた帝国ホテル
と自由学園の完成は高弟・遠藤新
に任せられた。自由学園の設計は
ライトと遠藤の共同設計となつて
いる。自由学園の南沢キャンパス
の当初の建物群は全て遠藤新によ
るものである。

参考資料

『F.L.ライトと弟子たち 日本人による
ライトの受容と実践』

The little school building was designed for Jiyu Gakuen – in the same spirit implied by the name of the school – a free spirit. It was intended to be a simple happy place for happy children – unpretentious – genuine.

The architects have felt this in working out this design with Mr. and Mrs. Hani, and are happy to see the building carrying its children as a tree carries its blossoms. The children seem to belong to the building in quite the same way as the flowers belong to the tree, and the building belongs to them as the tree belongs to its flowers.

FRANK LLOYD WRIGHT
ARATA ENDO

その名は自由学園にふさわしく自由なる心こそ、この小さき校舎の意匠の基調であります。幸福なる子女の、質素にしてしかも楽しき園(その)。かざらず、真率(しんそつ)なる。この意味で、設計者として、羽仁氏夫妻とこの建築の考案に与って来ましたが、いま、乙女たちの校内に群れて、花の木を飾るに似たるを見ては、誠に欣びに堪えません。

生徒はいかにも、校舎に咲いた花にも見えます。木も花も本来は一つ。そのように、校舎も生徒も一つに。

フランク ロイド ライト
遠藤 新

『自由学園の歴史I』より抜粋

明日館(国指定重要文化財)



女子部食堂前で行う朝の本鈴



女子部体操館と大芝生



遠藤新の設計した校舎

南沢に建てられた戦前の建物は
いずれも遠藤新による設計である。
起伏に富んだ敷地を巧みに利用
し、ライトと共同設計した自由学園
明日館の設計思想を生かして建物
が配置された。高く大きな窓の光の取
り入れ方、児童の身長等に合わせた
天井高や軒高の寸法計画など、様々
な設計の工夫を各建物にみることが
できる。

築90年近く経って、現在も使用
されている木造校舎は希少であると
共に、羽仁吉一が生活即教育の場に
相應しいキャンパスにしたいと造成
した自然溢れる情景の中で、ライト
様式の建築物の美しさが一段と引き
立てられている。

■東京都指定有形文化財

1934年に完成した女子部校舎群
と大芝生を含む女子部のエリア一体
が、2022年に、東京都有形文化
財の指定を受けた。

■東京都選定歴史的建造物

初等部等部食堂(1931年築)、
男子部体育館(1936年築)は、
2003年に東京都歴史的建造物に
選定されている。